

鬼 北 句 会

手ほどきを受けて誘はる 鯨日和  
鈍痛のぶり返しある 残暑かな  
新涼や寺の梵鐘とどき初む  
艶やかや雨すべらせて 秋茄子  
忍び足指を回して 蜻蛉取り  
群れ蜻蛉番ひしまつもゐたりけり  
絵日記の朝顔今日より色変る  
夕蜻蛉空の広さを我がものに  
式場に葬送の曲秋立つ日  
燈籠の天辺が好き秋茜  
一族のその後は知らず天の川  
瀧落つる音もカメラに収めたし  
日焼の子方言覚え 帰京せり  
芋の葉の大きな露で手を洗い  
しゃがみ込み子等の目線で花火みる  
半鐘台独り占めしてのうぜん花

大川 眺春  
毛利 知子  
善家 信景  
善家 三代  
善家 章  
上甲 正志  
松本 久江  
今西 英子  
武田 幸子  
二宮 千代子  
二宮 友子  
松岡 寛孝  
新倉地 英子  
芝 光 恭  
白敷フサ子  
上甲 斗志

広 見 短 歌 会

降りふれと蛙鳴けども雨降り烟幾日も白く乾ける 須藤ヒサエ  
食卓の一輪さしは何んの花白き蝶かと首かしげ見る 山本まつゑ  
まみどりの風つれ御開山峠越ゆ海拔五百歌友住みいて 武田 幸子  
孫たちと笹船作りうかべ行くうつげの花も水面にうつる 兵田トミ子  
葱坊主に螢を入れて打ち振れば幼かりし日のよみがへり来る 蛭谷 寿子  
亡き母と交す言葉はなけれど我れの心に生きてるませり 橋本 加代  
拗ねているわけでもないが気怠さになすすべもなく夏至の日暮るる 二宮 安恵  
古里の駅より見ゆる山川の思い出すべてに母の出でくる 高田 治子  
鼻につく戴草なれど十字架のごとき真白の花のいとしさ 渡辺キヨ子  
「又来るね安森ソーマンおいしいわ」友の笑顔を今年も待ちぬ 伊手リツエ  
あの時にああしてあげればよかったと悔も残れり夫の命日 松崎 静香  
年金の生活にも慣れこの町の水と緑と空気のうまさよ 佐々木登美子

Christopher's Story No.24

「Nametoko English Camp !」

8月1日から9日まで、私は「第52回森の国滑床英語キャンプ」に、インストラクターとして参加してきました。この滑床英語キャンプは、昭和31年に鬼北町の愛治地区で行われたのが発端で、その翌々年から松野町の滑床溪谷に会場を移し、現在まで続けられています。

8月1日にインストラクター同士の打ち合わせをし、2～4日まで、まずは社会人や大学生たちが参加する「地球人キャンプ (One World Camp)」をしました。このキャンプの参加者は愛媛県だけでなく、東京や九州など、いろいろなところから参加していました。

5～8日には、愛媛県や香川県、高知県から参加した中学生や高校生たちも加わり、一緒にキャンプをしました。中学生と高校生に分かれて5つのグループを作り、その中で私は、日本人の助手1人と一緒に、日吉中学校から参加した生徒1人を含む中学生6人のグループを指導することになりました。私のグループの生徒は、初めはすごく恥ずかしがって、ほとんど話してくれませんでした。2日目に、参加したみんなゲームをして交流するうちに、少しずつ仲良くなり、私たちはそのゲームで優勝することができました。3日目の夜には、それぞれのグループで英語のスキット (寸劇) を作って、発表し合い、私のグループはハリーポッターを演じました。みんなでたくさん笑って、最後にはみんな友達になっていました。

今回の参加を通して私は、とてもいい経験と思い出ができました。この滑床英語キャンプは、これまでもたくさんの人たちが、私と同じようにたくさんの思い出を作ってきた特別なキャンプだと思うので、これからもずっと続いていけばいいなと思います。